

ペットボトルの巨大ワニ出現!!

武蔵野緑町パークタウン自治会 木村 文

10月9日のイベント「クリーンセンターとあそぶ」で、会場入口に巨大なワニのオブジェが登場し、来場者を驚かせました。運営協議会がペットボトルで大きくて目立つものを作りたいと、武蔵野美術大学の学生有志に制作を依頼したもので、運営協議会としては材料集めから解体まで制作以外の作業を行いました。

●ペットボトルを集める

材料のペットボトルは、2ℓが2000本以上、1ℓ・500mℓ・350mℓなど合わせると約2500本。地域の町内会や自治会などの協力で、約一ヶ月かけて集めました。たくさんの方が声をかけてくれて、ワニ制作と聞くと「見てみたい」「楽しそう」と興味津々、イベントの宣伝になります。ペットボトルは身近にあるもの、誰でも参加できる素材と気づきました。

●ペットボトルを素材にする

集めたペットボトルを、すすぎ→乾燥→種類別に分別し、使える素材にします。ペットボトルにもいろいろな質の種類があることがわかりました。なかなか乾かなかったりへこんだりしても、根気よく干し、修復して素材に仕上げていきます。1本も無駄にできない気持ちになり、もうごみではなく素材にしか見えなくなってきました。



思い通りにいかないペットボトルに工夫を重ねて取り組む学生たち。

●ペットボトルで制作する

美大の学生たちにとっても初めての素材、試行錯誤で作っていきます。最初は口が開閉し子どもが乗れる予定でしたが、ペットボトルが柔らかく危険なので、シンプルなワニに変更し、透明テープや接着剤などで組み立てました。足の指など爬虫類らしくリアルです。ごみ収集後や休日のプラットホームで作業し、保管場所がないため分解と組み立てを繰り返しながら、前日の夜に完成しました。

●ワニのイベントデビューと解体・分別

ワニを会場入口に設置すると、大量のペットボトルでできた迫力ある「ワニさん」は、予想以上に注目を集め好評でした。もっと大勢に見せたいですが、終了後は大きすぎてそのままにしておけないため、名残惜しいですが解体・分別して資源にします。解体してみると、透明テープも最小限にし解体を考えて作られていました。分別したペットボトルは一週間かけ踏みつぶし、資源物として片づけ完了。材料集めから解体まで、多くの人の協力で、クリーンセンターだからこそ実現できた、学びの多いプロジェクトでした。

施設・周辺整備協議会

エコプラザ(仮称)についての検討

新クリーンセンターについて検討する第三期施設・周辺整備協議会は、3月に報告書をまとめ、6月から第四期の協議会が始まりました。第三期で課題だった進め方を改め、作業部会を重ねて議論をしています。

第四期は第一期からの検討を踏まえ、周辺整備・エリア整備・エコプラザ(仮称)の内容を具体化に向け検討していきます。

現在、来年早々に発足するエコプラザ(仮称)検討市民会議(注)に施設・周辺整備協議会の考え方を提案で

きるよう、作業部会を重ねて議論しています。

施設・周辺整備協議会の傍聴を希望する方はクリーンセンター事務局までお問い合わせください。

注：エコプラザ(仮称)検討市民委員会

現クリーンセンターの事務棟を再利用した環境啓発に関する施設「エコプラザ(仮称)」の開設を目指し、学識経験者、教育関係者、地域代表者、市民団体、公募市民、行政などで構成され、より全市民的な視点で施設のあり方について検討する。施設・周辺整備協議会は地域代表者として参加する予定。平成29年1月～平成30年3月(全10回程度)予定。

編集後記

稼働開始から32年、現クリーンセンターが担ってきた役目を終えるときがいよいよ迫ってきました。11月に新炉に火入れが行われてごみ焼却の試運転も始まり、着々と新工場への移行の準備が進行しています。モダンな外装の煙突が象徴するように、新工場が稼働するまでには、市民と市とががっちり協働してつくり上げてきた「信頼」という大きな礎があります。大切にさらに大きく育てていきたいです。(狩野耕一郎)

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 65

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺住民3団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

CONTENTS

- P1...新クリーンセンターの試運転準備
工事中 NOW 邑上市長が見学
- P2...報告●「クリーンセンターとあそぶ」
- P4...ペットボトルの巨大ワニ出現!!
施設・周辺整備協議会 エコプラザ(仮称)について検討

新クリーンセンターの試運転準備

新クリーンセンター工場棟の建設が大詰めを迎えています。クリーンセンター運営協議会では、工事の進捗状況について報告されています。12月12日から始まるごみの試運転焼却に向けて、11月中旬より工場内の機械の試運転が行われています。その中に、「蒸気配管ブローイングアウト」と「蒸気安全弁の作動試験」があります。

●蒸気配管ブローイングアウト 11月21日～29日

焼却炉を加熱し発生した蒸気によって配管内を完全に洗浄します。その際、音を伴い白い水蒸気が1分半程、一日に何度も発生します。

配管や炉内にごみや不純物が残っていると、機械に負担をかけたり、破損の原因になる可能性があるため、内部を完全にきれいにするための作業です。

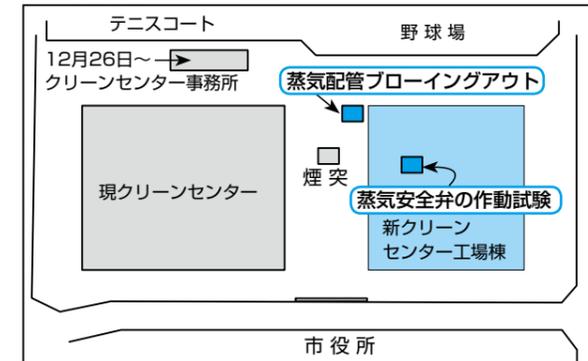
●蒸気安全弁の作動試験 12月16日・17日

通常、新設備でごみ焼却を開始するときに行うボイラ設備の蒸気安全弁の作動試験で、一日に2～3回、数秒音がします。蒸気安全弁は、圧力配管内部で発生する水蒸気などの圧力が異常に上昇した際に、破損しないように圧力を一定に抑えます。

モクモクあがる水蒸気や音に驚かれたかもしれませんが、火事や事故ではなく新しい炉を使用する際に行われる作業で、心配はありません。

長年の役目を終えた現工場棟は12月27日に火納め式を行います。年明けには現工場の解体工事に向け、周辺地域で解体工事説明会が行われます。周辺地域の方はぜひご参加ください。

水蒸気・音の発生する場所



工事中 NOW 2016. 11 邑上市長が見学 工事の進捗率は10月末時点で89%

工場棟も完成間近、11月には試運転の準備のために焼却炉に火入れが行われました。ボイラーに水を入れ加熱し、配管内のごみや油分を取り除き、この後に水を抜いて蒸気配管ブローイングアウトを行います。準備が進むなか、邑上市長が新しい工場を見学しました。



●報告 クリーンセンターと あそぶ

10月9日(日)、「クリーンセンターとあそぶ」がクリーンセンターで、市と運営協議会の共催により開催されました。現クリーンセンターも年末で炉を落とし、新工場の試運転が始まるため、現工場のプラットホームを会場にした催しは今年が最後、ごみや環境についてのさまざまなブースが並び、約700名の来場者でにぎわいました。

おもちゃの交換会 「かえっこ」

いらなくなったおもちゃをポイントに替えて、会場のおもちゃと交換できる人気のコーナー。開始とともに子どもたちが走ってきます。



おもちゃの修理をするお医者さんたち。大好きなものはいつまでも大切にしたいですね。協力/おもちゃドクター(日本おもちゃ病院協会)



工場見学

ヘルメットをつけて出発！ 現工場の見学も最後、新工場と両方見られることで、大勢が見学しました。

マイバッグを作ろう！

作ってすぐ使えるマイバッグ作りは今年も好評です。



ごみはどうやって 生まれ変わるのかな？

リサイクルの過程を見て触りながら、ごみやリサイクルの謎を探る展示。クイズにも挑戦！ 協力/産業環境管理協会資源・リサイクル促進センター



食品ロス展示 クイズラリー



食品を無駄にしないライフスタイルとは？クイズで楽しく学習します。

ペットボトルで 作ろう！



ペットボトルオブジェ 「ワニさん」



ペットボトルで作った巨大ワニ現わる！制作協力/武蔵野美術大学学生有志

クリーンセンターのスライドを見ながら、おいしいコーヒーとお茶でひと休み。協力/けやき茶社

カフェ



ペチャクチャ カフェ



おちゃわん リサイクル



不用になった食器を回収し、会場の好きなお茶わんを見つけて無料で持ち帰られる、リユース(再利用)の取り組み。協力/クリーンむさしのを推進する会

12月で運転を終了する現クリーンセンターについて、さまざまな立場の人が、スライドを見ながらそれぞれの思い出を語り、来場者と想いをともにしました。市民として運営協議会委員木村文氏・狩野耕一郎氏・元運営協議会委員水野隆司氏、事業者としてクリーンセンター建設に携わった元荏原職員の内田明氏・現在原職員チーム、武蔵野市として環境部参事の木村浩氏が、32年間をふりかえり未来への想いを語りました。